

P Gシステム 施工要領書

スチライト工業株式会社

作成日	平成 22 年 11 月 15 日	担当者	
改訂（2 回目）	平成 27 年 1 月 5 日		

1. 目的

この施工要領書は「AFM社防蟻断熱材 (Per form Guard) の仕上げ材システム (以下P Gシステム と記す)」工事の品質基準を確保する為の施工要領書です。

2. 適用部位

AFM社防蟻断熱材 (Per form Guard) が施工されている基礎、地下室内外壁、要壁。

3. 資材

- ・モルタル 商品名：P Gモルタル
荷姿 25 kg／袋
塗付可能面積 約 2 m² (総塗付厚 8 mmとして)
- ・専用プライマー 商品名：アロックシーラーバインダー
荷姿 18 kg入り缶、2kg 入り袋
塗布量 200g／m² (2 倍希釈状態)
- ・専用ネット 商品名：耐アルカリ性ガラスネット CPG ネット (C P－9)
荷姿 幅 50 c m又 1m (2 種類) 長さ 50m



PG モルタル



アロックシーラーバ インダー



耐アルカリ性ガラスネット

4. 施工方法

(1) 下地処理

- ・パフォームガード表面の泥汚れ等を清掃して下さい。
- ・パフォームガード面に 2 倍に希釈したアロックシーラーバインダーを 200g／m²塗布し、乾燥養生して下さい。(夏季 1 時間程度、冬季 2 時間程度)

(2) P Gモルタルの混練り

- ・P Gモルタル 1 袋に水 40前後を加えてモルタルミキサーで 3 分以上練って下さい。
水は全水量を一度に入れるのではなく、約 8 割程度の水を入れて固練りし、徐々に残りの水を加えながら固さ調整を行って下さい。

(注意事項)

- ・ P Gモルタルの混練りには、必ずモルタルミキサーを使用してください。ハンドミキサーでの混練りはモルタルに空気を巻き込む為強度低下となります。
- ・ 混練り時間は必ず 3 分以上としてください。混練り時間が短いと、粘りが出ず必要以上の加水の原因となります。
- ・ 他の材料の混入は絶対に行わないでください。

(3)塗付け及び専用ネットの埋め込み

- ・パフォームガード継ぎ手部分の隙間や凹み箇所に P Gモルタルを良く詰め込みます。



- ・ 下塗りの塗り厚は 3～4 mm程度とし、下塗付け完了後、すぐに専用ネットを埋め込みます。埋め込む際、ネットの浮きのないように平滑に埋め込み、充分 P Gモルタル内に入り込むようにして下さい。専用ネットの重ねは 50 mm程度とします。



- ・パフォームガード面に下塗り、ネット埋め込みを行った後、目荒しを行い、下塗りの締まり具合をみはからって上塗り工程に進みます。乾燥ムラが生じた場合や下塗りの締まり具合が不十分な場合は十分養生を行い、水打ち又は 3 倍希釈したシーラーを塗布した後上塗り工程に進みます。



- ・ 上塗りは、塗り厚を 3～4mm程度とし、鍔圧をかけながら行って下さい。
- ・ 水引き、締め具合をみはからって、仕上げ工程の金鍔仕上げ又は、刷毛引き仕上げを行います。(もみ過ぎは浮きの原因になりますので要注意)

5. 施工上の注意事項

- ・ P G モルタルは既調合品ですので、他の材料は絶対に混入しないこと。
- ・ P G モルタルは粉末接着材を混入している為、練り置きはしないこと。
(練り上げてから 30 分以内に使用すること。)
- ・ 硬化し始めた材料を練り戻して使用しないこと。
- ・ 5℃以下での施工は行わないこと。
- ・ 冬期施工完了後、凍害の恐れのある場合は養生を行う。
- ・ 直射、通風による硬化不良を防ぐ為、施工中、施工後には防塵ネット等を設置すること。
- ・ 施工後、雨水等がかからないよう養生を行うこと。

6. 安全上の注意事項

- ・ 現品は、セメント同様アルカリ性を示します。眼、皮膚、衣類に触れない様に防護具（ゴム手袋、防護眼鏡、マスク等）を着用してください。
- ・ 誤って目に入った場合は直ちに清浄な水で十分に洗浄し必要に応じ専門医の治療を受けて下さい。
- ・ 皮膚に付着すると皮膚荒れを起こすことがありますので直ちに水洗いをして下さい。
- ・ 作業後は手洗い、うがいをしてください。
- ・ 現品にアスベストは含まれておりません。

以上